

PONNO²

ポノポノ

vol.2

2003.10発行 浦安市 経営企画部 企画政策課 人権・男女共同参画班
〒279-8501 浦安市猫実1-1-1 TEL 047 (351) 1111
編集：情報誌編集講座「今日から、私はエディター・ライター」受講者

特集 しあわせエネルギー —女から、男から、そして私から

「男だから」「女だから」とジェンダーにとらわれて自分を枠にはめていませんか。この世に生まれてから、やがて去る日まで、すべての人が持つ無限の「しあわせエネルギー」。今よりもっとしあわせになるために少し立ち止まって考えてみませんか、自分がどうありたいのか、を。

それってホントにあなたのやること？

忘年会の景品は女の子に買ってきてもらおう。

パソコン、故障したみたい。なおして。

体育館への椅子運び、男の子に頼もうよ。

蛍光灯、いつになったら取り替えてくれるの？

お祭りのテント、片付けに行って！

そろそろ洗車してきて。

保護者欄、あなたの名前にしておくね。

古雑誌、ごみの日に出しておいて。

部長にお歳暮贈っておいて。

共同清掃だって。ママよろしく。

夕食？ なんておいしいよ。

おーい、おれのパンツは？

お母さん、温泉はよかったね。今度はまたこたちも誘おうよ。

自分でできることなのに、ついつい誰かにまかせきりにすることが意外と多いものですね。できないことを手助けし合うことは必要ですが、自分以外の誰かがすることだと思いついてある場合もありそうです。特に男女間では、家事や育児、こまごましたことは女性の役割、収入を得ることや力仕事、機械や車の扱いは男性の役割と、無意識のうちに分担してしまうことが多いようです。

でも、男性であり、女性である前に「私」なのですから、まず「自分はどうしたいのか」を考えて行動してみませんか。会社や家庭、学校や地域で、「私は…する」という主体性を持つことが自分らしく生きること、すなわち自立して生きるためのスタートになります。

ひとりひとりが自分を大切にしつつ、お互いを尊重する関係が築けたら、思い込みや決め付けられた役割の中で窮屈な思いをすることもなくなるのではないのでしょうか。

あるときは自分でやってみる。あるときは助け合い、支え合う。そのほどよきさじ加減が、女と男、お互いの人生をより豊かにするエッセンスになることでしょう。

そこで、日々の暮らしを思い浮かべてみてください。
「あなたまかせ」の場面は「やってみよう」の気持ちと少しの時間で、
自分育てのチャンスに変わります。
まずは手始めに、いつも誰かがしてくれていること、
あなたがチャレンジしてみても？
そして、自分の役目として引き受けてしまっていること、
たまには誰かにバトンタッチしてみても？

二人に戻ったとき…

あなたは老いを想像できますか。
「幸せになろう！」と手を取り合った互いをパートナーとして認めてから何年たったでしょう。いつしか子どもたちも巣立ち、それぞれが家庭を持って暮らしている。そんなとき、あなたは再びパートナーと手をつなぐことができますか。互いのことについて話し合うことができますか。
今でも当たり前のように手をつなぎ、互いのことが話し合え、たまには昔のことを振り返ってみる。そんな二人は間違いなくしあわせな時間を刻んでいることでしょう。
でも、手をつなぐなんてとんでもない、会話はもっぱら子どもや孫のこと。あるいは二人に戻ってから飼いだめたペットのこ

と…。他の誰にも越えられない二人の歴史があるのに、もし寄り添えないとしたら、それはなぜでしょう。
子育てや仕事にと忙しかった日々も過ぎ、ゆっくり時間が流れるようになったのなら、あらためて互いを見つめ直してみませんか。また、新たに二人の時間の流れが生まれるかもしれません。
そして、そんな話はまだ先のことだよ、と思っているあなた！ 365分の1でも2でも意識してそんな時間をつくってみませんか。
いずれそのときがきても手をつないで歩いていることでしょう。

シニアライフ 1

どう呼ばれても「私」は「私」。 だけど、気になるその呼び名……。

新婚時代
嫁の前に妻なのよ
家と結婚したんじゃないの！…
嫁の花子です。

結婚 数年目 子育てにどっぶり
パパ！早く出かかないと遅刻しちゃうわよ。
ママ！まことが泣いてるよ！

結婚 十数年目 私の名は「お母さん」？
お母さんお弁当まだ？
お母さんコレ洗濯しといてね。
お母さんハンカチ！
ごはんくれにや〜ん

結婚？ 年目 二人に戻ったとき
お母さん、温泉はよかったね。今度はまたこたちも誘おうよ。
いつまでも、お父さん、お母さんっていうのもなんだかねえ。また名前で呼ばない？

ひとり暮らしになったとき…

ひとりになったら、趣味の釣りやテニスを楽しもう。あるいは、気のおけない仲間とカラオケや温泉にも行きたい。とはいうもの、現実には思いのほか厳しく、今の日本は多くの問題を抱え、ひとり暮らしのシニア世代にも暮らしにくい社会となっています。右図で見るとおり、身近な方たちもさまざまな不安を持っていました。ずっと輝いて自立したいと考えるのは皆同じだと思いますが、身体的・経済的にとままたまならないのが現状です。
では、「自分らしく生きる」にはどうしたらよいのでしょうか。国や自治体が環境を整えることも重要な課題のひとつですが、私たちもできることから考えてみましょう。

◇ひとり暮らしで不安なこと（シニア世代）

- ・ 家の中に話す人がいない。テレビが話し相手
- ・ 台風や大雨のときは心細い
- ・ 病氣や転倒等で動けないときに困る
- ・ 粗大ゴミの処理が大変
- ・ 急にボケたらどうしよう
- ・ 経済的な不安
- ・ 何をどこに相談してよいかわからない

う。まず、お互いに支え合うことができ、個々の声も反映されるような地域社会づくりが必要です。そのためには、シニア世代の方の人権を尊重することが大切ですし、またシニア世代の方も持っている経験を活かすことで、お互いに自分らしく生きていけるのではないのでしょうか。

シニアライフ 2

年金…

会社に勤めていて厚生年金に加入している場合、年金の構造は2階建て。国民年金部分にあたる老齢基礎年金と、老齢厚生年金の2つを受給します。しかし厚生年金に加入している夫の扶養によって国民年金の受給資格を得ている専業主婦の場合は、老齢基礎年金しか得られません。

右図は、3人の女性(既婚)の年金の割合を示したグラフです。

女性のライフスタイルによって年金の割合が違うことが一目瞭然!

社会保険庁HP「自分でできる年金額簡易試算」
http://www.sia.go.jp/outline/nenkin/simulate/ で見られます。
年金に関する問い合わせは社会保険事務所へ

◆妻のライフスタイル別受給割合の比率 (65歳以上の年金受給割合)

- ◆正社員 生涯平均年収600万円 40年間厚生年金に加入
- ◆パート(再就職) 生涯平均年収240万円 25年間厚生年金に加入(第一号および第三号被保険者期間15年)
- ◆専業主婦 生涯平均年収0円 結婚前後において、仕事はしていない(第一号および第三号被保険者期間40年)



このグラフは一例です。実際の年金の受給割合は個人によって異なります。

シニアライフ

3

編集に携わって

「ポノポノ vol.2」は平成15年度情報誌編集講座「今日から、私はエディター・ライター」を受講した私たちがつくりました。

青木弥生：たった1行、1語を生み出すのにこんなにも多くの議論と時間が必要とは。苦行。と紙一重の快感。堪能しました。たくさんの方にこの思い入れまで熟読してほしい!

池田彰子：より深く皆さんの心に届くように納得いくまで議論を重ねました。あなたの新たな一歩を後押しできれば幸いです。

H・O：普段何げなく使う言葉を考えるようになりました。乾いた体には栄養補給、今からカタイ頭を切り替えます。

大野直美：「生きざま」って何でしょう。自分らしく在りたいだけなのにどこか難しい。でも、そろそろ歩みを進めましょうか…。

小畑裕子：顔の見えない読者をあいての文章作成は大変。でも個性豊かな人たちとも出会え「私」の中の妻や母でない所を見つめ直した講座でした。

加藤今日子：思っていることを言葉にするのは難しい。でもこのまま流されればなしは嫌なので話せることから伝えていきたい。

久保田弘子：FAXつまってうらたえて気がつきゃコピーも人任せ。PC添付が開けない。自立を問うてみたけれど鏡で見よう我姿。これに気づいて大収穫。皆様本当に有難う。

諏訪部敦子：こんなに身近にあっても、今まで深く考えたことなかった大きなテーマ。出会うきっかけをくださった皆さんに感謝!

竹田恵美子：すべての経験に無駄なものはない

とつもない、というのが私の持論。男・女、大人・子どもではなく、ひとりの人間としていつも笑顔で生きていきたいと思えます。

田中美枝：男女共同参画の意義はわかりましたが意識革命は未知数です。よき出会いがたくさんあり楽しかった。そして、皆さんの個性も勉強になりました。

徳永朋子：1つのテーマをとっていても、感じることや思いは人によって全く違っているというところが面白くもあり難しくもあり。

野口一美：来年下の子が幼稚園。講座参加を経て、自分育ての極意も授かり、晴れて、夫の執筆や講演を支える秘書から昇格です。

浜村佳美：妻も夫も言いたいけど言えないってことありますよね? そんなとき、そっと「ポノ・ポノ」を手渡してみてください。きっと何かが変わるかも。

広田由紀江：「自分はこう思う!」前より言えるようになりました。こうやって強くなってゆくのかな?

前田敬子：世の中を変えるのは人々の「意識」です。そして世の中は変わるものです。確実に。

森安紀子：へんなこだわりを持っていたのは私自身かも…。まずは自分から変えてみよう。今までの着ぐるみ脱いで、楽～な気持ちで。

山賀恭子：徐々に深く考える私の姿を見ていたうちの子どもたちは将来どんな大人になるのかな? 皆さんのパワーに感謝します。

度会紀子：言葉のマジック、一言の受け取り方は千差万別。その意味合いを正確に伝えるのは大変。言葉選びは、さびた頭の体操でした。

ハワイ語の「PONO」(意味は、正しさ、幸福、繁栄など)に由来します。2つ並べて「ポノ・ポノ」と声に出してみたときの響きが親しみやすいでしょう!

「ポノ・ポノ」の意味



子育てと仕事が両立できたらいいのになあ…。



働く女性がふえると少子化につながる。日本ではこんな声がさやかれています。ウラを返せば、女性が、働きながら出産や子育てをすることが難しい国であることを表しているのではないのでしょうか。一方で「女性の労働力率が高い国は出生率も高い」ともいられています。「産みたい」と「働きたい」、どちらもあきらめずに、子育てと仕事が安心して両立できるようになるには…。浦安市民8人に聞いてみました。

協力してくれた方々のプロフィール

性別：女性5人 男性3人
年代：30代6人 40代2人
地域：北栄 東野 日の出 今川 富士見 美浜
職業：有職7人 無職1人
子どもの有無：
いる5人 いない3人

子育てについて思うこと

出産と育児についての声はさまざま。子どもを産みたい(子どもがほしい)かどうかをたずねると、産みたいという声よりも、産まないという声のほうが多くて…。

本当はあと2人くらいほしい。でも年長的にキツイし、経済的にも3人以上はムリ…。家の広さも4人家族が限界。

フルタイムでは子育てとの両立が難しかったので、パートに切り替えた。仕事にいてる間、安心して子どもを預けられるところが少なすぎる。

働きながら子どもを育てる環境が整っていない。教育費の負担も大きい。

以前は産みたいと思っていたけど、今は私のようなところに子どもが産まれたら、その子が可哀想かなあと思って…。こんな世の中で育てほしくないというのが本音だけ…。

子育ては大変だけど、子どもはかわいい。

子どもは多いほうが楽しい。

収入が確実に減ること。育てていくうえで不安。

たまたま今まで妊娠しなかった。何となくそのうちできたら産もうと考えて不妊治療もしなかった。今のままでいいと思うので産まなくてもいいやと思うようになった。

仕事との両立が難しい。二人目まではなんとかやってきたけど、三人目を産むと、その先のキャリアアップが望めなかった。

子育て不安をなくすには

結婚しても産まない選択をし、仕事を続ける人もいます。また、子どものいる人でも経済的な不安からもう子どもを産まないと考える人も。「産まない」と考えている人が、自分の意思で「産んでみよう」と考えるようになるには、どうしたらよいでしょうか。

女の子にも男の子にも家庭科や総合学習を通じて、子どもを産み育てることについての教育をする。

男性社会が変わらなければ…。

企業と行政の理解と支援が必要。働く女性をバックアップするサービスを提供してほしい。

住環境・道路の整備。安心できる環境を。

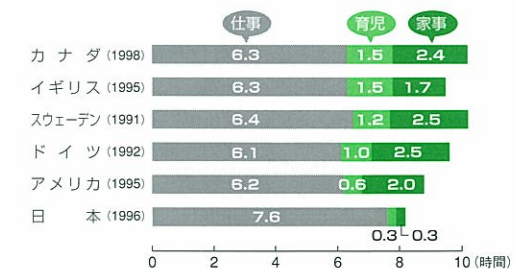
保育園の時間延長、子どもが病気のときの対応、保育料の減額、通園の利便性。

命の大切さや道徳的なこと、モラルなどを地域で子どもに教えることができるような環境づくり。

女性と男性がお互いに尊敬し合うことから始めれば、職場、家庭内、教育等の問題は、少しずつ改善すると思う。簡単そうで難しいことだけど。

◆海外のお父さんは協力的?

子育て期にある男性の育児・家事時間を欧米と比べてみました。日本のお父さんパワーはまだ眠っているかも。



資料出所：OECD「Employment outlook」、総務省「社会生活基本調査」(平成8年)

子どもたちは今

Hさんの場合 (小学校3年生)



父・会社員
母・専業主婦
弟・幼稚園

ママには「お帰り」って迎えてほしい

パパは朝早く会社に行き、家に帰ってくるのも遅い。3日くらい顔を合わせないこともある。でも、そんなことぜんぜん気にならない。ママがいつも家にいるから。

毎日会社に行くパパも大変だけど、家のことをするママも大変だと思う。食事の支度とか洗濯は毎日やらなきゃいけないし、けっこう面倒くさそう。ママが働きに出るのはいいけど、私が帰った

ときには、やっぱり「お帰り」って言ってほしい。

家や学校で「女の子なんだから」とか「女の子らしくしなさい」と言われたことはないけど、たまにおじいちゃんには言われる。「えっ、どうして?」って思うけど、どんなときに言われたか覚えていない。自分が女の子でよかったかどうかはわからない。

1日くらいは男の子になってみたい。男の子の間で流行っている遊び(バトル鉛筆)ちょっとやってみたいから。それで、そのあと、自分がいいと思うほうの性別になれたらいいなあ。男の子はいつも熱中すると、すぐ盛り上がる。騒ぐ男の子を叱るのが女の子の役目って面倒。

子どもたちは今

Rさんの場合 (小学校4年生)



父・自営業
母・助産士
妹・小学校1年生

うちはみんなで連携プレー

うちは親が2人も働いているから、家のことはみんなでやる。分担が決まっています。お父さんは花の手入れと掃除、洗濯、土曜・日曜には料理もする。イタリアンが得意。とってもおいしい。お母さんは小鳥の世話と食事の支度、洗濯。土曜日に仕事に行くこともある。

僕の役目は布団をたたむことと学童クラブに行っている妹を迎えに行くこと。それからご飯の支度も手伝う。妹は新聞を取りに行く。どっちも帰りが遅いから、帰ってくるまでは、宿題をしたり、テレビを観たりして待っている。夕飯はいつも9時頃。

でも、親が家にいなくても何も困らないし、ラクだよ。平日に家にいたら「えっ?」

と感じて、びっくりしちゃう。お腹が空いたらお菓子を食べるし、近くにコンビニもあるから。お父さんは料理をつくるけど、面倒そうなので僕はつくりたいとは思わない。

よく家族みんなで遊びに行くけど、お母さんは疲れているから行かないこともある。お父さんもおんなじみたいだけど、一緒に行ってくれ。お父さんのほうが体力あるからかなあ。